外為どっとコム総研
外為トゥデイ
Daily
主要通貨の日々の推移をわかりやすく解説し、今後の見通しをお届けします。

3月9日（火曜日）
ドル/円

方向感に欠け、動きにくい展開に

8日（月）の主な推移

ダウ平均株価
10552.52ドル （-13.68ドル）
米長期金利（10年債利回り）
3.7176% （+0.0323%）
NY原油先物
81.87ドル （+0.37ドル）

チャート：30分足　8日（月）朝7時 ～ 9日（火）朝7時

※チャートは30分足　日本時間にて表示　※左表は終値ベース、( )は前日比
出所：外為どっとコム

①	前週末の米ダウ平均株価が上昇した事を手掛かりにし、本邦株式市場での株高を期待したドル買いが出て、ドル/円は90.68円まで上昇した。しかし本邦輸出筋からのドル売りにより、90.30円レベルまで押し戻された。
②	英独の株式市場が軟調に推移し時間外のダウ平均先物が下落したことに伴い、市場ではリスクを取ることに消極的な動きとなりクロス円が売られた。この動きによりドル/円も連れ安となり、19時過ぎには90.15円をつけた。しかし90円近くでは底堅く推移し、その後90.30円前後でのもみ合いとなった。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

上昇要因(ドル高・円安)

・米国経済の回復
・米長期金利の上昇
・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
・金融市場全体のドル売りムードの緩和
・日銀の追加資金供給
・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

・米金融規制案への懸念
・米国の超低金利政策の長期化観測
・米長期金利の下落
・米国経済の回復の鈍化
・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
・米財政赤字悪化懸念の高まり
・金融市場全体のドル売りムードの高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 89.50-90.90円

本日も先日に引き続き主だった経済指標の発表がないため、手がかりに乏しい展開が予想される。ドル/円は上値では本邦輸出筋が待ち構えており、上値を重くしている様子である。一方で下値では買い意欲が強い状態が続いており、どちらの方向にも動きづらいと見られる。

テクニカル面では先週の米2月雇用統計による上昇後、90.10円から90.70円でのレンジ的推移が続いている。まずはどちらかに抜けないと方向感は出にくいと見られるため、抜けた方にトレンドが傾くと見られる。なおチャート上では先週金曜日に大陽線をつけた後、昨日コマの形をした陰線が出現しており、仮に本日が金曜日の陽線に食い込む形の陰線を付けた場合、宵の明星の出現により目先の天井示唆となる可能性が出てくるので注目したい。

本日及び翌朝の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示　時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
3/ 9(火)	27:00	○	(米) 財務省3年債(400億ドル)入札	——	——
3/10(水)	08:50		(日) 1月機械受注 [前月比]	+20.1%	-3.5%
	08:50		(日) 1月機械受注 [前年比]	-1.5%	-0.6%

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではございませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された 意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。
Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com